

敦賀市文化財 Map



敦賀の祭り・行事

1月 西町の綱引き(国重要無形民俗) 西町(現:相生町)
約400年前から続く小正月の行事で、厄年の男性が夷子神・大黒神に扮して町内を練り歩いた後、直径20cm、長さ50mの綱を見物客らも参加して引き合います。東の夷子が勝てば「大瀧」、西の大黒が勝てば「豊作」と、その年の運勢を占います。

1月 初午祭り(市) 山 稲荷神社
2月の最初の午の日には伏見稲荷が鎮座した日で、多くの稲荷神社の祭日となっています。山の初午祭りは豊作を感謝し、折る祭りで、ヒト退治の伝説にちなんで裸れ着姿のヒトミゴクを連れて8人のゴクカキが神社まで行列します。

1月 だのせ祭り(県) 野坂 野坂神社
豊作や農作業の順調なことを願い行われます。素焼という衣装を身に着けた6人の男衆が、ちりちりという棒を縦に見立てて持ち太鼓をたたきながら踊る「田打ち」、東ねた青葉杉を早足、床を田面に見立てて笛を構える様子踊る「田植え」を行います。

5月 杵見御田植祭(県) 杵見 信濃宮神社(男宮) 久豆神社(女宮)
田の無事なる成長と豊作を祈って行われる行事で、男宮・女宮それぞれに「御常さん」を中心とした行列を仕立て「ヤーホーハイヤ、来年も当座、再来年も当座」と氣勢を上げ神社に渡御します。神社の拝殿では、「王の舞」「獅子舞」「田植え歌」などを奉納します。

4月 気比神社の春祭り・秋祭り(市) 刀根 気比神社
春祭りでは、むしろの旗を先頭に、手にして藁束と杖を持ち、桂の若枝を結んだ冠をかぶった子どもたちが、区内を練り歩きます。秋祭りは「みやあけ」ともいわれ、音頭に合わせて餅を威勢よく高く持ち上げながら棒状で餅搦きを行います。これらのお供えを子どもたちが中心となって神社まで行列し奉納します。

9月 相撲甚句(県) 阿曾 利根八幡神社
例祭の中で豊作感謝と神振行事として宮相撲が奉納され、中入りには、各家に伝わる華やかな化粧まわしを着けた10人の力士が、相撲踊りを行います。相撲甚句には種やかなテンポの「大瀧川」とやテンポの速い「小瀧川」があり音頭取りの軽妙な歌にあわせて踊ります。

9月 赤崎獅子舞(県) 赤崎 八幡神社
八幡神社の例祭で奉納される獅子舞です。舞は「鈴の舞」「舞の舞」「蟹拾い」「凧」と続き、「高い山」で最高潮となり、獅子は踊り狂って「千秋楽」となります。踊り手のほかにも道化役も出て面白おかしく賑やかに舞い踊り、笛や太鼓も高度な技術で演じられます。

9月 山車巡行 旧市街地一円
気比神社の例大祭で繰り出される山車は、およそ400年前から続くといわれ、最盛期には40〜50基が繰り出したと言われていました。敦賀の山車の特徴は、実物の彫面や甲冑を付けた等身大の武者人形による合戦絵巻や山車の舞台を飾る水引障子の豪華装飾な飾りつけです。

すてな踊り(市)
敦賀市内全域にわたって踊り継がれてきた盆踊りで、敦賀まつりには市民総出で踊られています。粟野・市野々地区では、踊りの歌に地区の豪農柴田氏の故事を取り入れ、「柴田音頭」として愛好されています。

門ヶ崎岬
日本海に突き出た断崖絶壁である門ヶ崎は、花崗岩特有の直方体状の岩が波の浸食や風化によって複雑な幾何学的模様を纏い、雄壮な景観を演出しています。岬の先端部分にある高さ30mの2つの石柱と波の浸食によってできた洞窟は海上から見るとあたかも門のような様相をしています。

常宮のオウム岩(市)
常宮神社背後の西方ヶ岳中腹にあるオウム岩は、江戸時代の旅行記「東遊記」にも登場する名所で、高さ約20m、幅30mあります。オウム岩の手前にはある呼びの上からものをうつとオウム返しに反響するためオウム岩と呼ばれるようになりました。

色浜の産小屋(県)
産屋に類する習俗は、全国的に見て瀬戸内諸島・四国・中国・伊豆諸島・北陸等の地方に分布していましたが、敦賀半島では比較的近年まで残っていました。妊婦は産気づくとき産小屋に入り、室内に下がっている力綱にすがることで産出し、出産後も一定期間は産小屋で生活する慣例でした。色浜の産小屋は元々は集落内の海岸近くにあったものを移築したものです。

木の芽古道(歴史の道百選)
天長7年(830)に開削され、以降明治初期まで千年以上にわたり敦賀と嶺北方面の往来に利用されてきました。紫式部や道元、織田信長・運如など多くの歴史上の人物が往来しています。峠には通行人の監視や吟味にあたった前川家の居宅が残っています。

深坂古道
古代、敦賀から粟野を走り近江へとぬける道は、敦賀市南部の道分2つに分かれ、湖西(滋賀県高島市)へ向かう七里半越え(粟野山越え)と、湖北の塩津(滋賀県長浜市)へ向かう深坂古道(塩津山越え)がありました。深坂古道は、奈良時代以来の「万葉の道」の一つで、紫式部も幼少期に越前国府(現:越前市)に向かう父・藤原為時に伴われこの道を通りました。

休岩寺のソテツ(県)
ソテツは九州南部を自生北限域にいます。東海沿岸は冬でも雪が比較的少なく気候のおだやかな地域で、ソテツの生育条件に恵まれています。このソテツも高さ5mあまりの老樹巨木で、日本海沿岸地域のソテツとしては生体地理学上の重要なものです。根元から4本に分かれさらに7本に分かれた特徴的な樹形をしています。

北前船関連遺産
船絵馬 北前船主や船頭たちは、航海の安全などを祈って船体や船名、奉納願文船頭名などを記載した絵馬を市内各所の神社に奉納しています。また、大暴風による沈没の危機から免れた場合には、感謝の意を込め大波に翻弄される船形を描いた船絵馬等も奉納されました。

北前船図絵馬(市) 文化元年(1804)若狭屋の船頭・治部兵衛が八幡神社に奉納した絵馬です。満帆に風をはらみ疾走する千石船の後ろに海運守衛の住吉大社を描いています。[八幡神社蔵]

船中掟心得書(市) 北前船主の立石兵衛が書き記したもので、船頭や水主の原守へき促、船の守り神である船玉明神を崇敬すること船乗り的心得が記されています。[敦賀郷土博物館蔵]

常宮神社奉納物 常宮神社境内には、航海安全を願い石灯籠などが奉納されています。名の知れた北前船主としては、越前河野浦の右近左衛門などがいます。

洲崎の高燈籠(県) 享和2年(1802)、造船問屋の庄山清兵衛が建立した高さ7.64mの日本海側最古の石積み燈台です。毎夜燈火をともして敦賀湾を出入りする船の目印とされていました。

気比神社祭礼の山車(市) 気比神社例大祭で市中を巡行する山車の豪華絢爛な装飾は、北前船交易などで繁栄した敦賀の商人の財力と心意気を示しており、有力商人の中には山車を複数所有する裕福な家もありました。

気比神社大鳥居扁額 加賀藩越前の北前船主・大家七平によって明治34年(1901)に奉納されました。大家家は五大北前船主にも数えられ、敦賀―ウラジオストク間の定期航路の運輸も担っていました。[氣比神社]の文字は有栖川宮威仁親王の染筆によるものです。

昆布の手すき加工技術 北前船交易によって北海道から敦賀に荷揚げされた海産物のひとつに昆布があります。昆布の一大集積地となった敦賀には、多くの手すきおぼろ昆布職人が集まり、おぼろ昆布の一大産地となっています。

発券舟川の里 舟川の歴史や構造などが学べる展示館。定規城や定広院など周辺散策の拠点になります。

所在地 敦賀市定広28-7-1 駐車場:トイ有
開館時間 9:00~17:00
休 日 年末年始(12/29~1/3)

日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間〜北前船寄港地・船主集落〜」
江戸後期から明治時代前期まで、日本海側各港で様々な商品を売り買ひする「北前船」による交易が盛んになります。敦賀には北海道のニシンや昆布などが大量にたらされ港は活気にあふれました。この繁栄は広く敦賀地域全体に及びました。また市内各所の神社には、航海の無事を願って船馬や石灯籠などが寄進されています。

